

2024年6月期第1四半期決算説明資料



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

上場市場 : 東証プライム 札証
証券コード : 9450

 **2024年6月期1Q決算実績**

 **2024年6月期通期決算見通し**

 **トピックス**

Appendix

1

2024/6期1Q実績：10%増収14%経常増益

- ✓ 1Qの過去最高を更新。EBITDAマージンも高水準維持
- ✓ ホームユース事業は既築・新築いずれも順調。ビジネスユース事業は大型案件期ズレもあり、売上はほぼ横ばいながら、利益率は上昇

2

2024/6期見通し：7%増収10%経常増益

- ✓ 現状見通しを据置き。成長減速は不動産案件端境期のため。通信事業のみでは16%増収とほぼ前期並みの成長を確保する見通し
- ✓ セグメント別には新築案件の貢献するホームユースが好調を持続。ビジネスユースも先行指標たるフロー収入の増加を牽引役に拡大

3

自社株取得など資本コストと株価を意識した経営を推進

4

トピックス



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期1Q決算実績

- 2024/6期1Qは前年比10%増収14%経常増益。経常利益率も0.7pp改善し、比較的順調な滑り出しとなった前期からさらに増収増益を確保。1Qでは過去最高を更新となる。今期も順調な滑り出しと位置づけ
- 成長は引き続きホームユース事業が牽引。既築・新築案件いずれも順調。一方、注力分野であるビジネスユース事業は大型案件期ズレもあり、売上はほぼ横ばい。ただし、大規模施設増や値上げ浸透により利益率は上昇

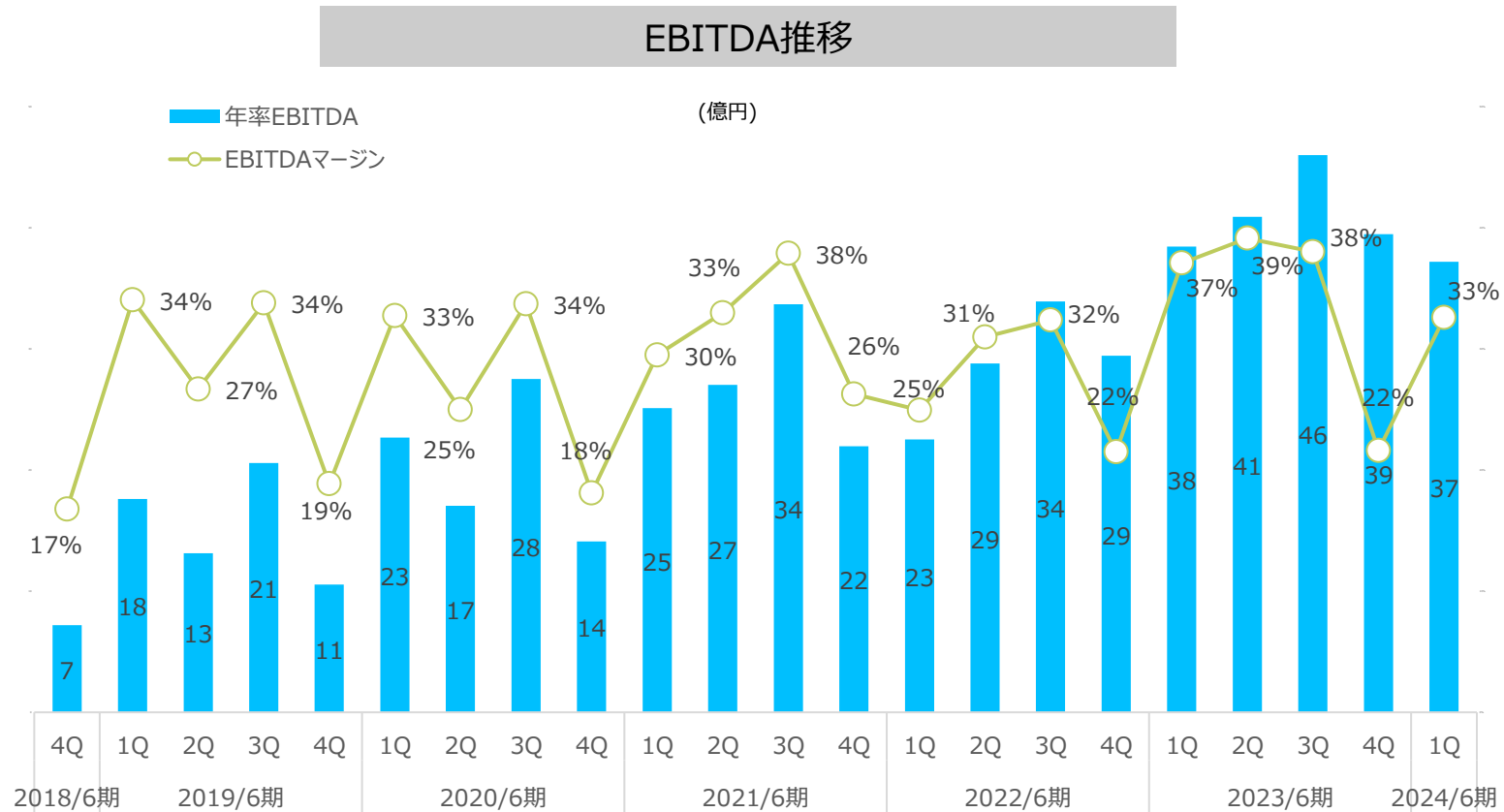
(百万円) 百万円未満切り捨て 0.1%未満四捨五入	2023/6期 1Q実績	2024/6期1Q			2024/6期通期	
		実績	前年差異	前年比	見通し	進捗率
売上高	2,591	2,852	+261	+10.1%	13,710	20.8%
ホームユース	2,256	2,521	+265	+11.7%	11,020	22.9%
ビジネスユース	329	327	▲2	▲0.7%	1,860	17.6%
不動産他	5	4	▲1	▲20.2%	830	0.5%
営業利益	480	525	+44	+9.3%	2,530	20.8%
ホームユース	671	714	+42	+6.3%	3,290	21.7%
ビジネスユース	46	56	+10	+22.0%	460	12.3%
不動産他	▲8	▲4	+3	赤字縮小	80	-
調整	▲229	▲241	▲12	赤字拡大	▲1,300	18.6%
経常利益	480	548	+67	+14.1%	2,520	21.8%
経常利益率	18.5%	19.2%	+0.7pp	-	18.4%	-
親会社当期純利益	337	370	+33	+9.9%	1,680	22.1%

- 対4Q比較では、不動産事業の影響を除くと、売上は実質横ばい。ホームユースでストック積み上がり効果が寄与したものの、ビジネスユースは期末に集中した機器販売の反動減が影響
- 損益的には対4Qで減益。しかし、不動産の寄与を除いたベースでは増益を確保。事業拡大に伴う間接コストの増加も一巡し、利益が出やすい構造に。通信事業は着実に収益体質の強化が進捗

(百万円)	2022/6期				2023/6期				2024/6期	4Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	2,258	2,323	2,618	3,423	2,591	2,612	3,024	4,567	2,852	▲1,714
ホームユース	1,930	1,977	2,132	2,101	2,256	2,245	2,632	2,466	2,521	+54
ビジネスユース	257	336	342	308	329	350	381	450	327	▲122
不動産他	70	10	144	1,013	5	16	10	1,650	4	▲1,646
営業利益	288	445	515	403	480	511	745	582	525	▲57
ホームユース	451	611	656	598	671	717	897	683	714	+31
ビジネスユース	53	76	58	46	46	70	89	83	56	▲26
不動産他	0	3	19	28	▲8	4	▲2	145	▲4	▲150
調整	▲216	▲246	▲219	▲270	▲229	▲280	▲238	▲329	▲241	+88
経常利益	279	439	509	375	480	500	737	571	548	▲23
経常利益率	12.4%	18.9%	19.5%	11.0%	18.5%	19.2%	24.4%	12.5%	19.2%	+6.7p
当期純利益	182	299	345	246	337	338	499	306	370	+63

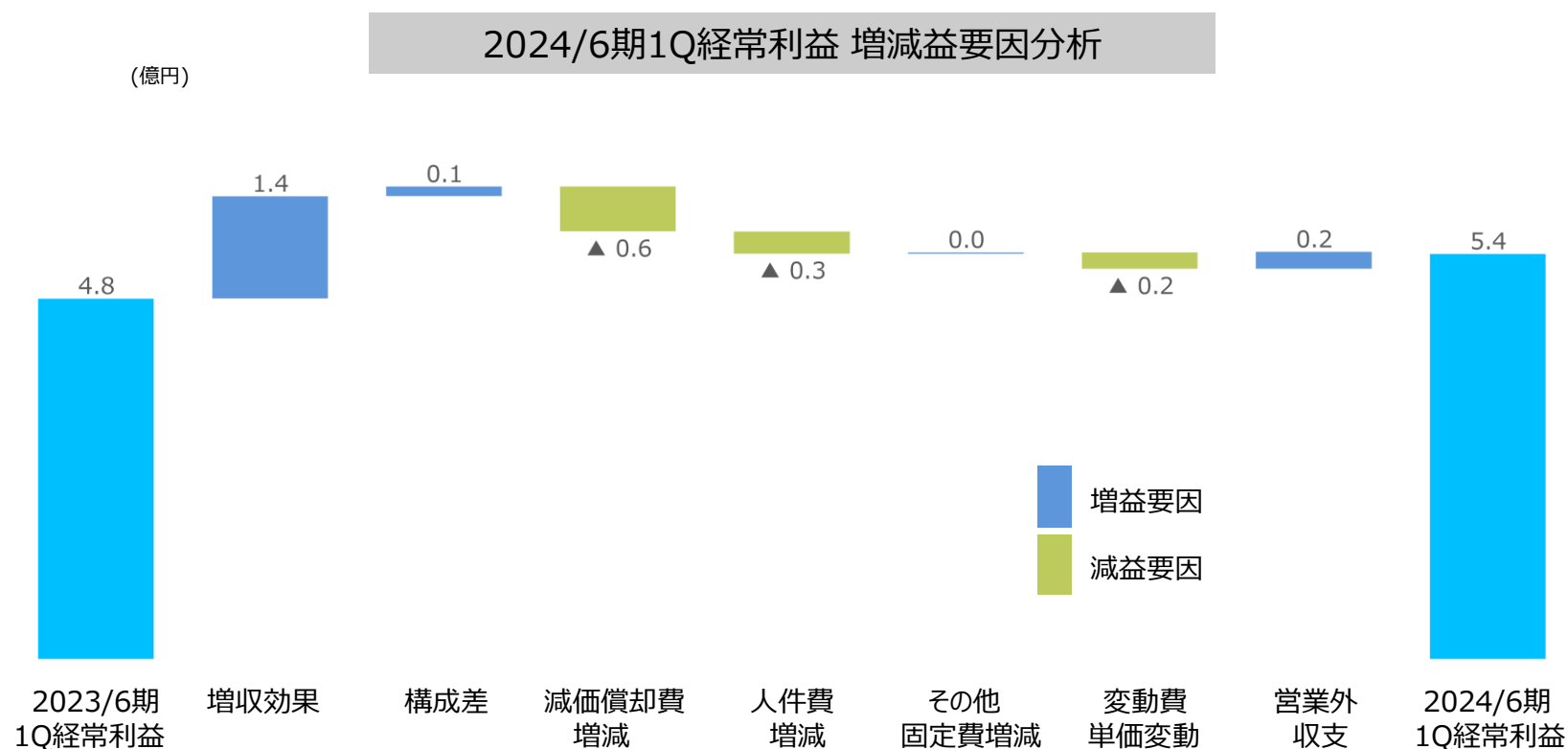
*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

- EBITDAは上場来順調に拡大。1Qでは年率37億円を計上し、EBITDAマージンも33%と高水準を持続
- EBITDAマージンはほぼ一貫して3割前後の水準で推移。企業規模の拡大はあるものの、キャッシュ創出力に減速の兆しは見えず



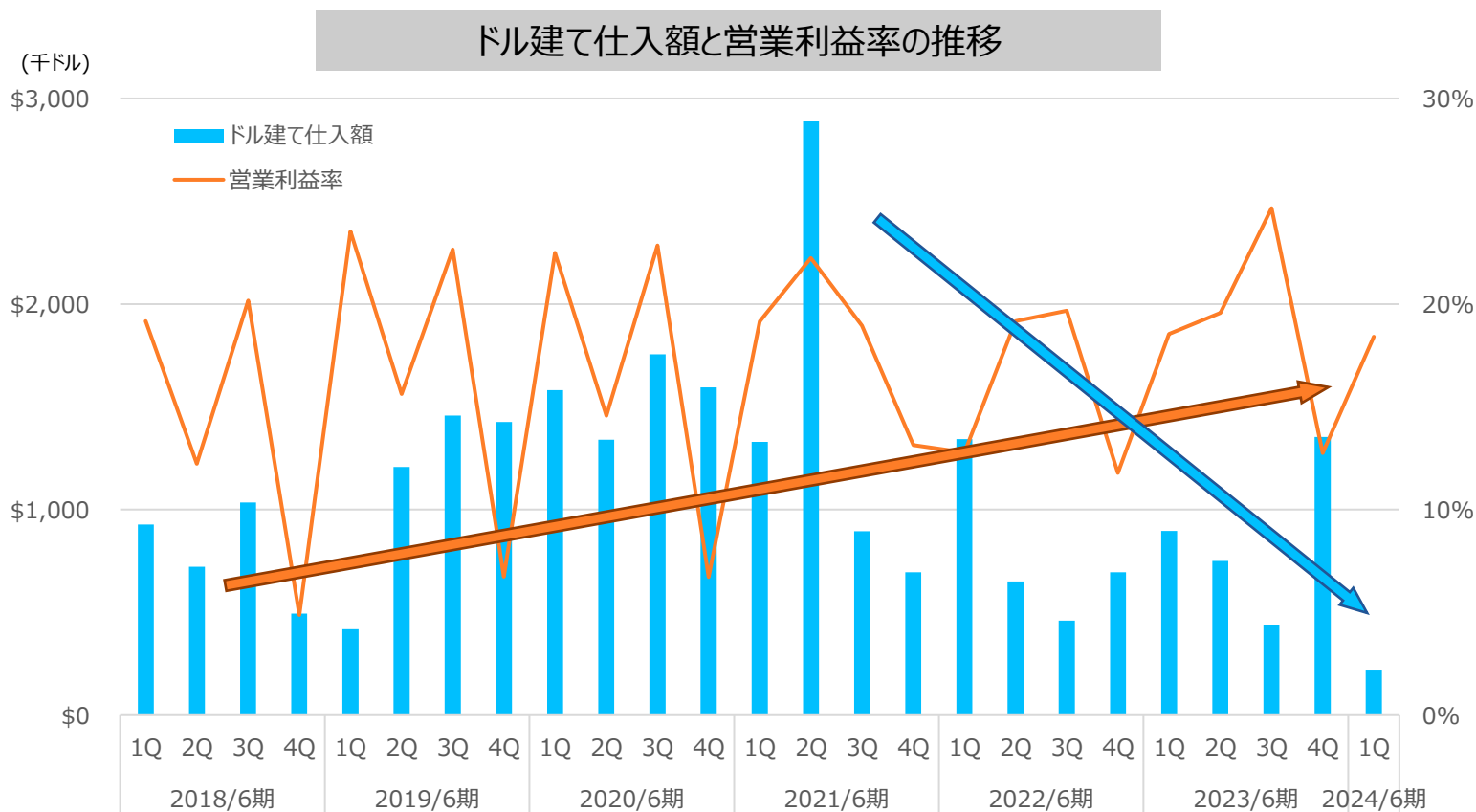
注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 と定義

- 前年1Q比経常増益の主因は売上増に伴う増収効果と売上構成改善に伴う利益率の上昇。構成改善はビジネスユース事業における大規模施設向けの伸長や値上げ浸透などが寄与
- 一方、人件費や償却費の増加は収益圧迫要因として影響。しかし、その増加ピッチはこれまでと比較してかなり緩やかなもの。生産性の改善でコスト上昇を抑制するスキームを着実に構築



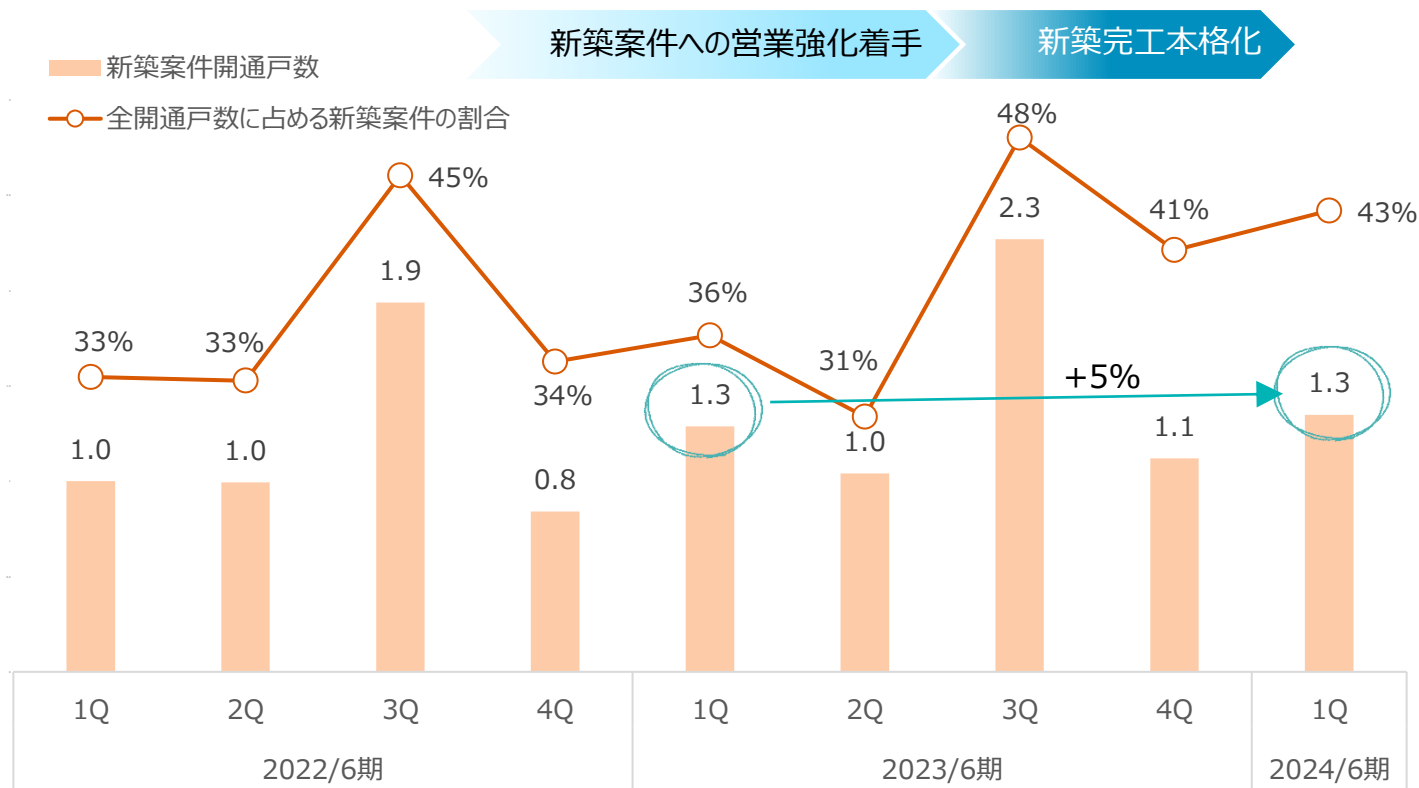
ドル建て仕入額と営業利益率の推移

- 通信機器は海外からの調達製品が多いものの、ドル建て仕入額は2021/6期以降、漸減。Wi-Fi契約数は増加しているものの、円建て決済へのシフトなどを推進し、為替変動の影響を抑制
- その結果、直近は円安進行下ながら、営業利益率の下限は切り上げが進展。収益の安定度は向上



- 1Q四半期のホームユース事業新築案件開通戸数は前年比5%の増加。これまでの増加ピッチと比較すると比較的小幅な伸びに留まるも、営業から完工までのタイムラグを考えれば、ほぼ定常状態に近いと認識
- 全開通戸数に占める新築案件の割合は43%。新築案件も軌道に乗り、今後はおよそこの程度の比率で安定するものと想定

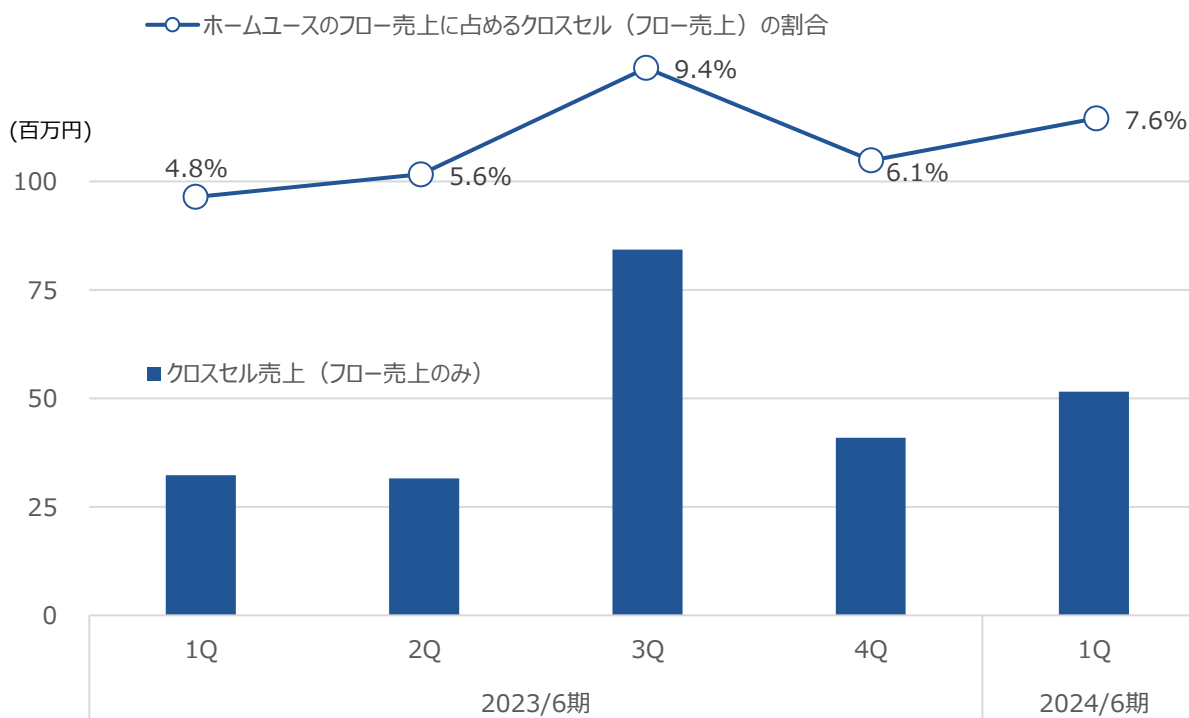
ホームユース事業 新築案件開通戸数推移



*2022/6期1Qの新築開通戸数を1とした場合の指数表示

- クロスセルは2023/6期より本格的に注力。IoTを利用したスマートロックやセンサー、防犯対応のネットワークカメラなどをWi-Fi利用顧客に提供。クロスセル製品の総売上規模（フロー売上とストック売上の合計）は現時点で約1億円/四半期程度
- 主体は導入時点のフロー売上であり、趨勢として拡大基調で推移。前3Qの急拡大は新築完工集中による季節要因の影響によるもの。1Q時点でホームユースのフロー売上に占めるクロスセルの売上割合は7.6%まで上昇

クロスセルのフロー売上推移

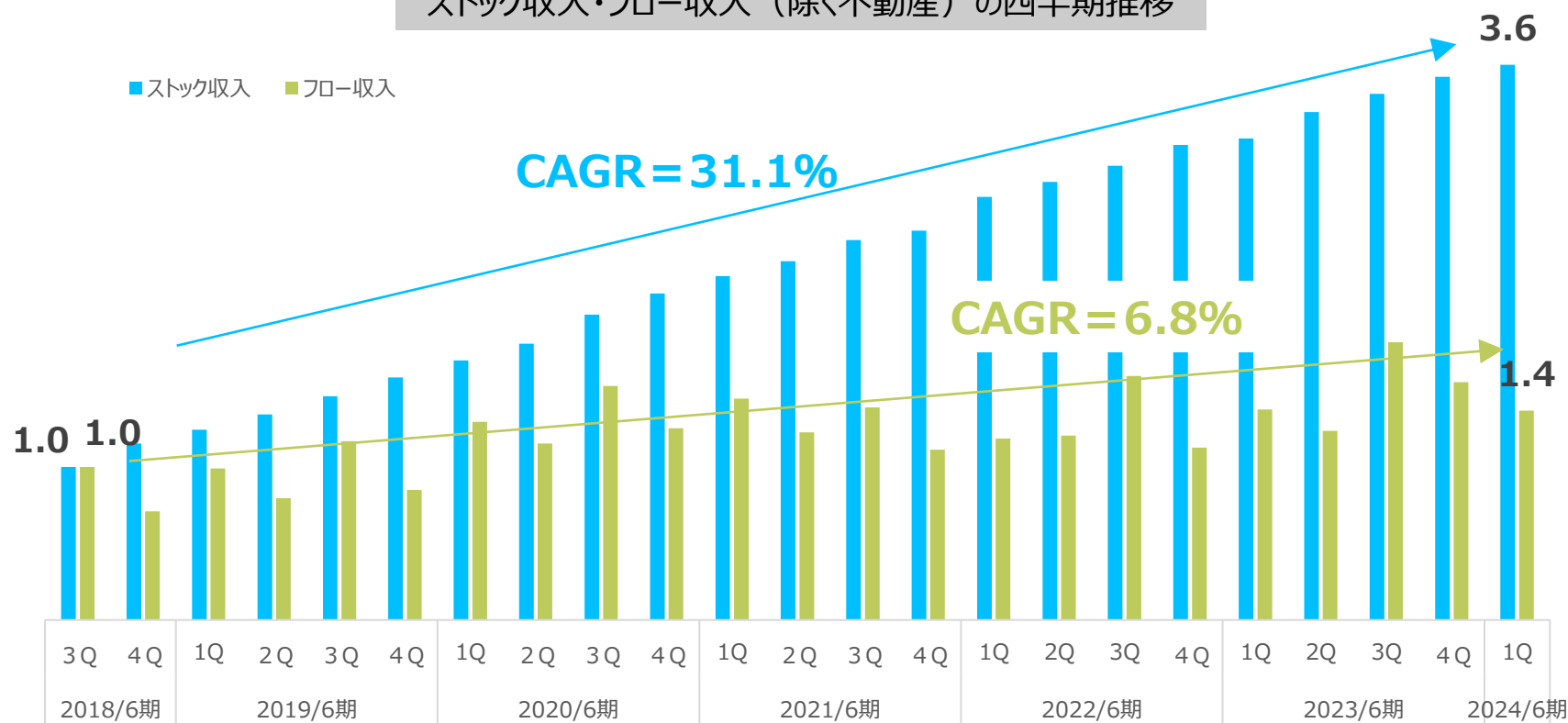


宅配BOX設置サービス



- ストック収入の積上げは順調。上場来22四半期連続の増加となり、年平均成長率は31%と高水準を継続。ただし、成長率自体は規模の拡大から徐々に低下する傾向が徐々に鮮明に
- 一方、フロー収入は一進一退ながら、着実に事業規模は拡大。これらはストック収入の入口との位置づけ

ストック収入・フロー収入（除く不動産）の四半期推移



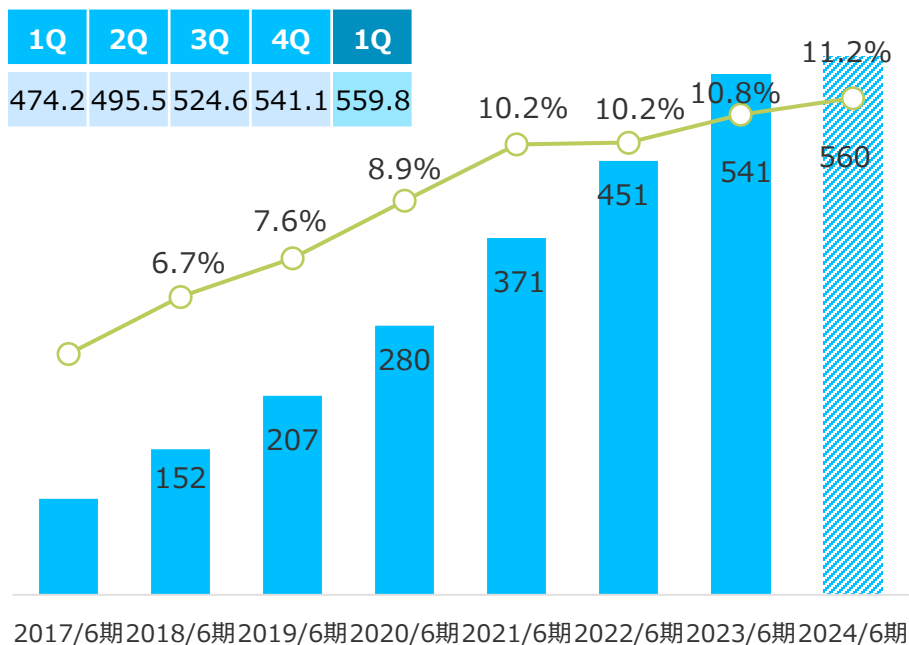
注) 2018/6期3Q=1 として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記にもかかわらず、見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある
 この収入内訳は当社定義に基づく連続性のある比較数字であり、収益認識基準下における期間按分売上などは厳密には異なる

- レジデンスWi-Fiサービスの期末接続済戸数は56万戸。新築案件効果もあり、接続済戸数増加ピッチは堅調
- ビジネスユースにおいて先行指標となるフロービジネス売上は、足の長い案件増や売上期ズレもあり、1Q時点ではスロースタート。一方、ストックビジネス売上は着実に伸長。加速感はまだながら、ストックの積上げ急ぐ

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数と全国シェア*の推移

■ レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数（千戸） ● 全国シェア

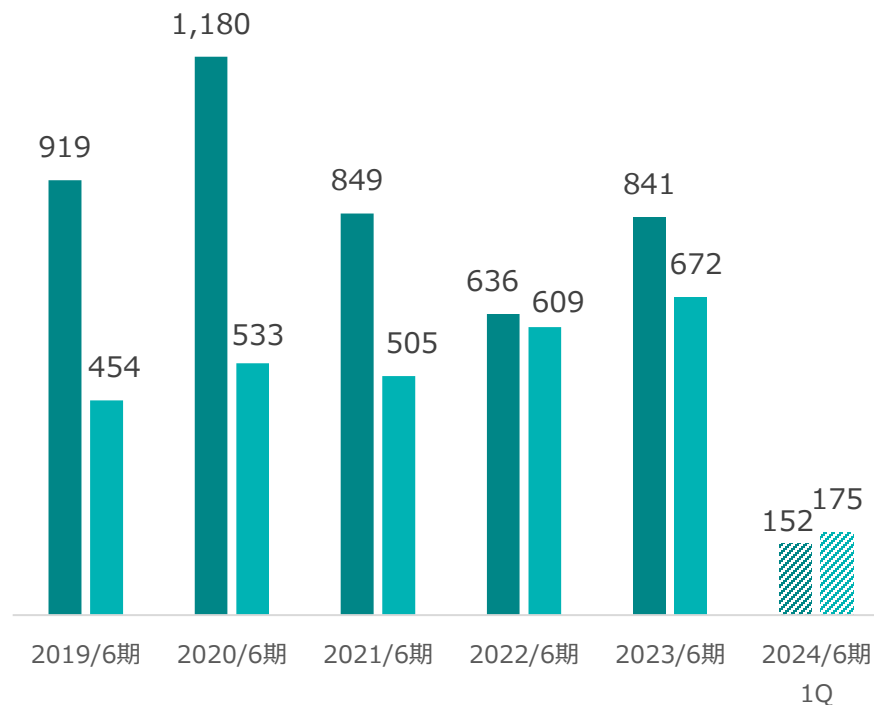
過去5四半期の推移



*全国シェアはMM総研発表による全戸一括型マンションISPの提供戸数総数（各3月末現在）を当社会計年度末（もしくは直近四半期末）の契約戸数実績で除して算出

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移

■ フロー ■ ストック (百万円)



連結決算概要(貸借対照表)

- 自己資本比率は前期末比改善の36.8%。自己資本は配当支払い発生あるも当期利益の貢献で積上げ
- 有利子負債は2四半期ぶりに増加。特に資金タイトな状況にはないが、これ以上の圧縮は加重平均資本コスト(WACC)を逆に引上げる可能性もあり、レバレッジを意識した資金調達を実施。借入圧縮の流れは一服

(百万円)	2022/6期	2023/6期	2024/6期 1Q	2023/6期 比増減
流動資産	6,028	5,559	5,580	+20
現預金	2,303	2,382	2,107	▲275
売掛金	1,375	1,585	1,542	▲43
棚卸資産(通信)	654	637	873	+236
棚卸資産(不動産)	1,426	655	767	+112
固定資産	7,057	7,203	7,357	+153
有形固定資産	6,204	6,565	6,744	+179
総資産	13,087	12,764	12,938	+174
負債	9,808	8,005	8,105	+99
有利子負債	6,653	4,672	5,030	+358
契約負債	1,958	1,638	1,550	▲87
純資産	3,279	4,758	4,833	+74
負債純資産合計	13,087	12,764	12,938	+174

通常の通信事業拡大に伴うキャッシュアウト

Wi-Fi契約増に伴うもの

Wi-Fi契約増に伴い通信事業関連資産が増加

借入金返済は一服

自己資本比率36.8%

*百万円未満切り捨て、0.1%未満四捨五入

- 当社のROEは直近5期実績平均で33%。このままでは純資産が積み上がり、加重平均資本コスト(WACC)が上昇してしまう可能性が否めない状況
- 資本効率上昇に向けて、財務レバレッジを活用。純資産は配当増や自社株取得などにより、その積み上がりピッチを緩和させ、WACCの上昇を抑制。2023年11月には自社株取得の再実施を発表

純資産抑制策

<自社株取得実績>

2020/3	上限1億円 (111,400株取得)
2021/12	上限1億円 (88,000株取得)
2023/3~8	上限1億円 (74,400株取得)
2023/11~	上限1億円 (上限89,686株)

<配当状況>

2019/6期	0.00円/株
2020/6期	3.50円/株
2021/6期	4.00円/株
2022/6期	4.50円/株
2023/6期	10.00円/株

純資産積み上がりピッチを緩和

<ROE>

直近5期実績平均 **33%**



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

2024年6月期通期決算見通し

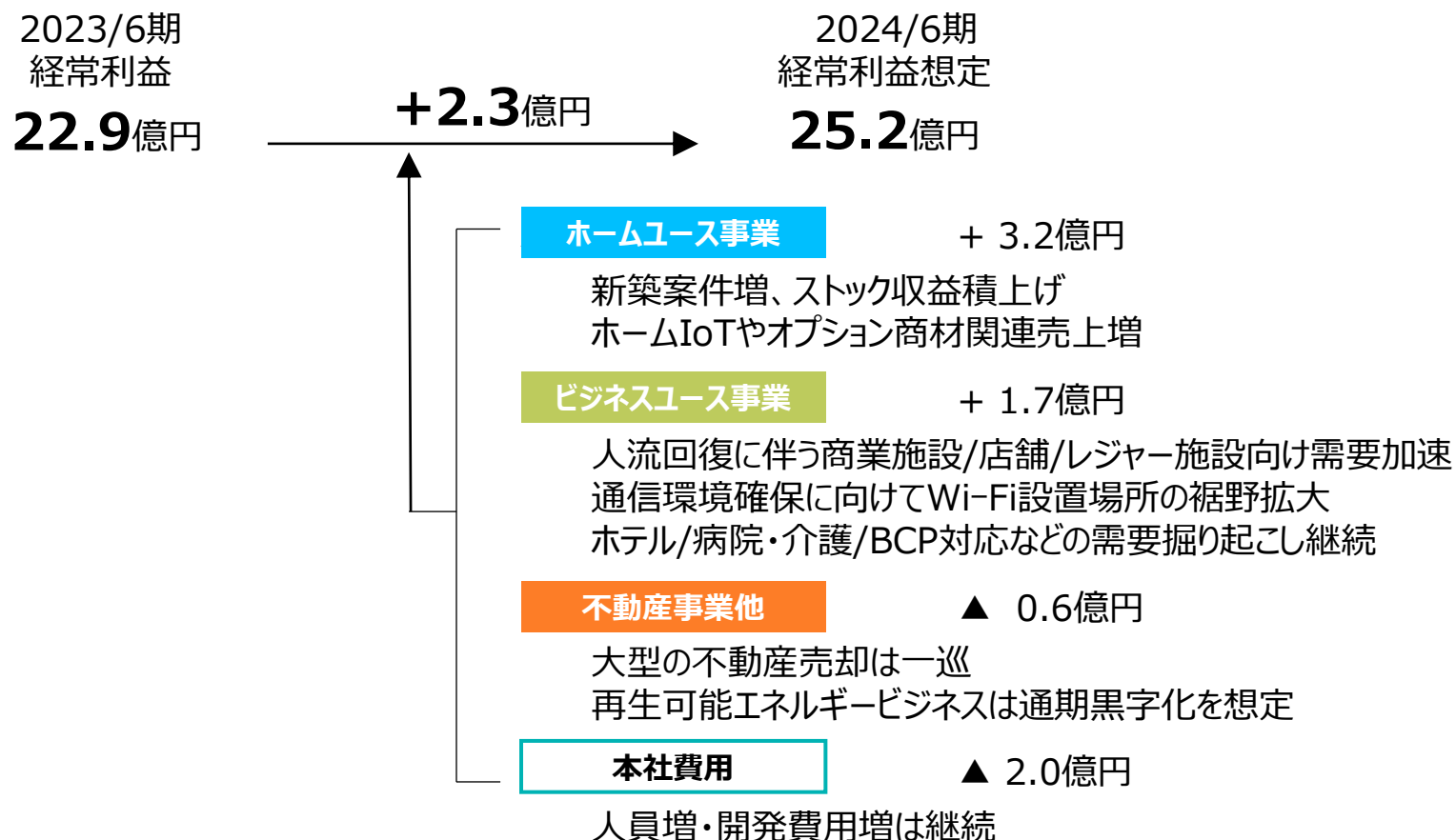
2024/6期連結決算見通し① 総括表

- 2024/6期通期想定は据置き。7%増収10%経常増益を想定。前期からは成長ピッチ減速となるが、これは案件端境期となる不動産事業の影響。通信事業は16%増収と、前期程度の高水準の成長を維持を予想
- セグメント別には新築案件の貢献するホームユースが好調を持続。ビジネスユースも人流回復に伴う商業施設/観光施設向けにフロー収入の拡大を追求。リードタイムの遅れを取り戻し、今期は最も高い成長を目指す

(百万円。百万円未満切り捨て)	2022/6期	2023/6期	2024/6期 見通し	前年比	
				増減額	増減率
売上高	10,624	12,795	13,710	+914	+7.1%
ホームユース	8,141	9,600	11,020	+1,419	+14.8%
ビジネスユース	1,244	1,512	1,860	+347	+23.0%
不動産他	1,238	1,682	830	▲852	▲50.7%
営業利益	1,652	2,320	2,530	+209	+9.0%
ホームユース	2,318	2,970	3,290	+319	+10.8%
ビジネスユース	235	289	460	+170	+58.7%
不動産他	52	138	80	▲58	▲42.2%
調整	▲953	▲1,078	▲1,300	▲221	▲20.6%
経常利益	1,604	2,290	2,520	+229	+10.0%
経常利益率	15.1%	17.9%	18.4%	+0.5pp	-
当期純利益	1,073	1,482	1,680	+197	+13.3%

2024/6期連結決算見通し② 増減益分析

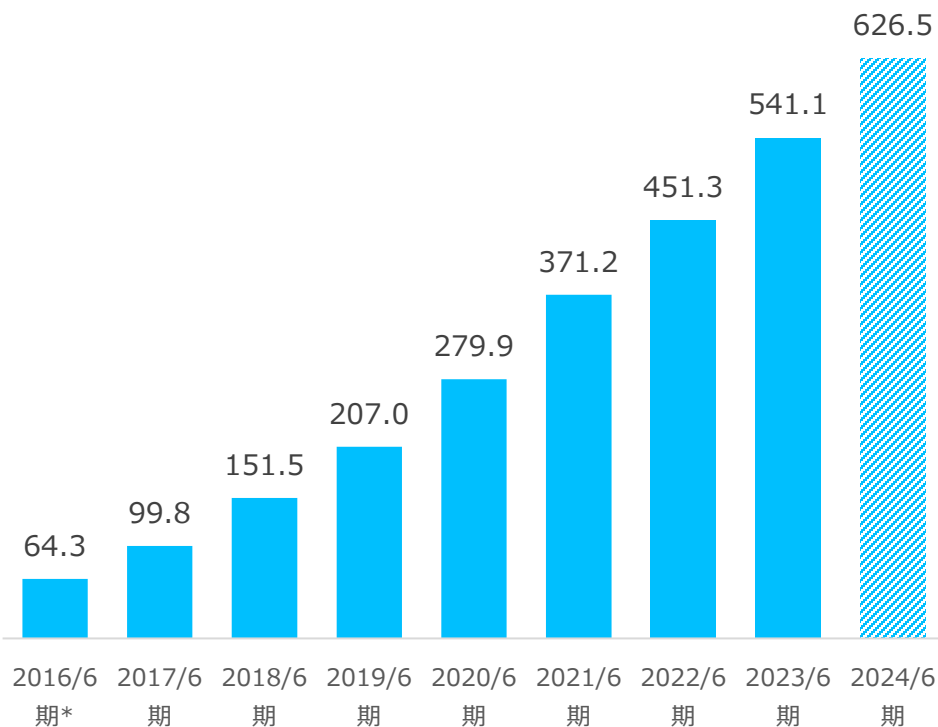
- 前期比2.3億円の経常増益見通しは、ホームユース事業が引続き最大の貢献をすると想定。注力領域と位置付けるビジネスユース事業も、各種布石を打ってきた効果の発現を予想
- 一方、不動産事業他は案件端境期に。ただし、再生可能エネルギービジネスでは一定の利益水準確保を見込む
- 本社費用他では人件費や開発費などを主因にコスト上昇継続と想定



- レジデンスWi-Fi新規接続戸数の前提は9.2万戸超の増加。累計戸数は62.6万戸と設定。拡大ピッチはほぼこれまで通りの水準を目論む。なお、新築/既築構成では、新築完工本格化により新築のウエイトが増す見通し
- ビジネスユースではフロー売上の更なる積上げを想定。病院や介護施設、観光施設といった注力領域の営業結実に加え、導入の容易な「ワンタッチWi-Fi」などのユニークな商材の浸透に注力

レジデンスWi-Fiサービス接続済戸数

(単位：千戸)

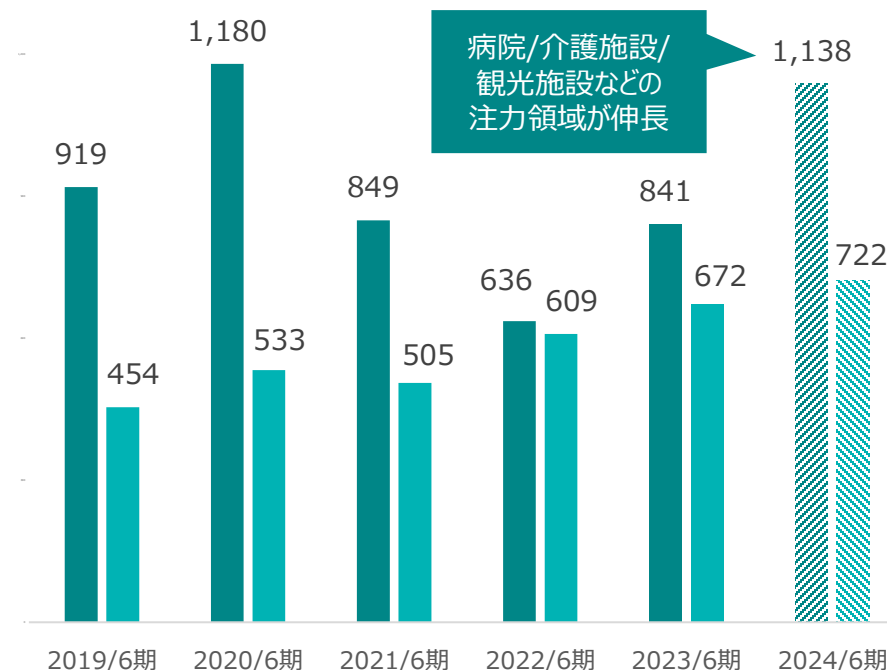


* 2016/6期は6ヵ月決算

フロー/ストック別ビジネスユース売上高推移

(百万円)

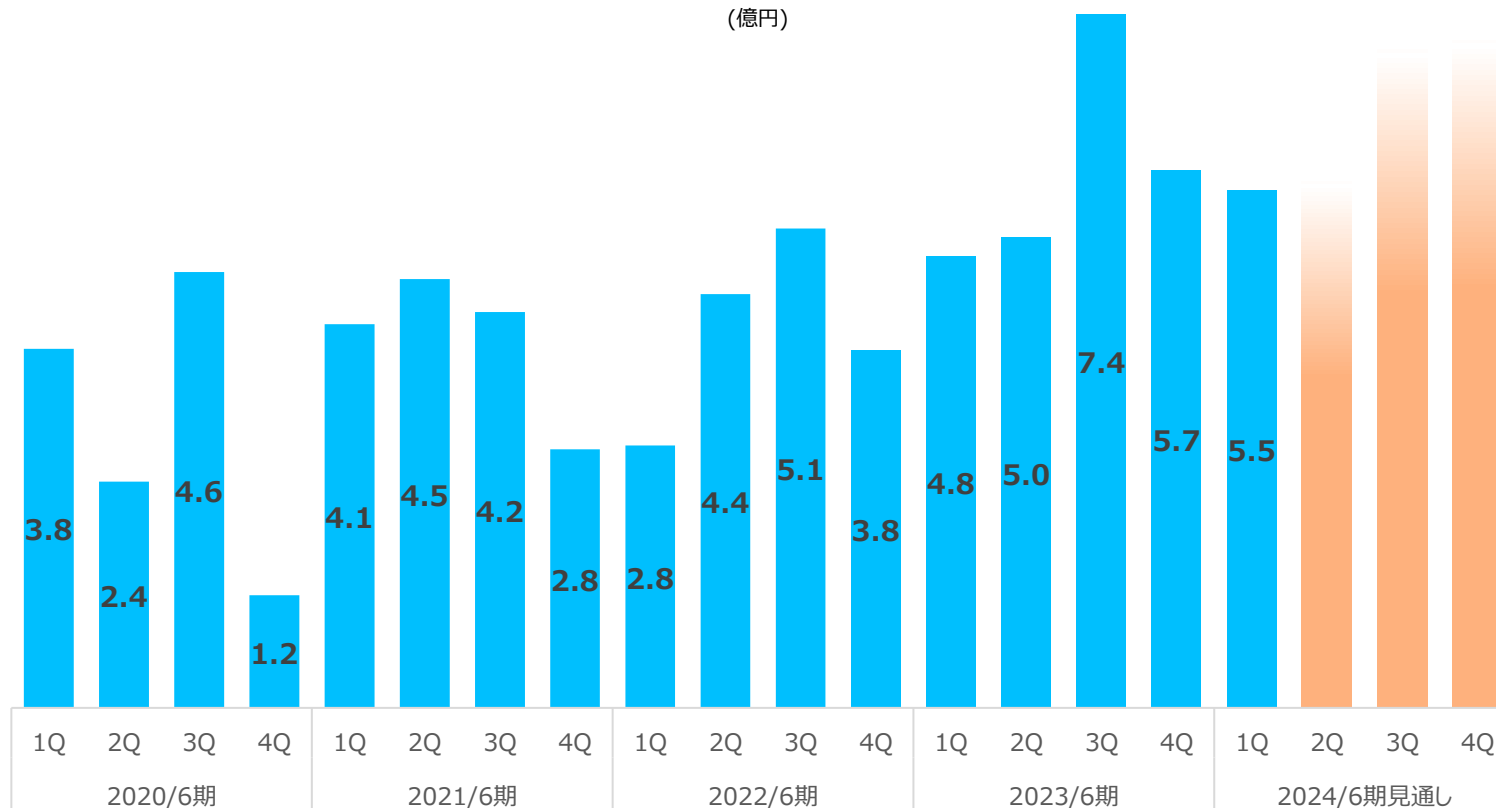
■ フロー ■ ストック



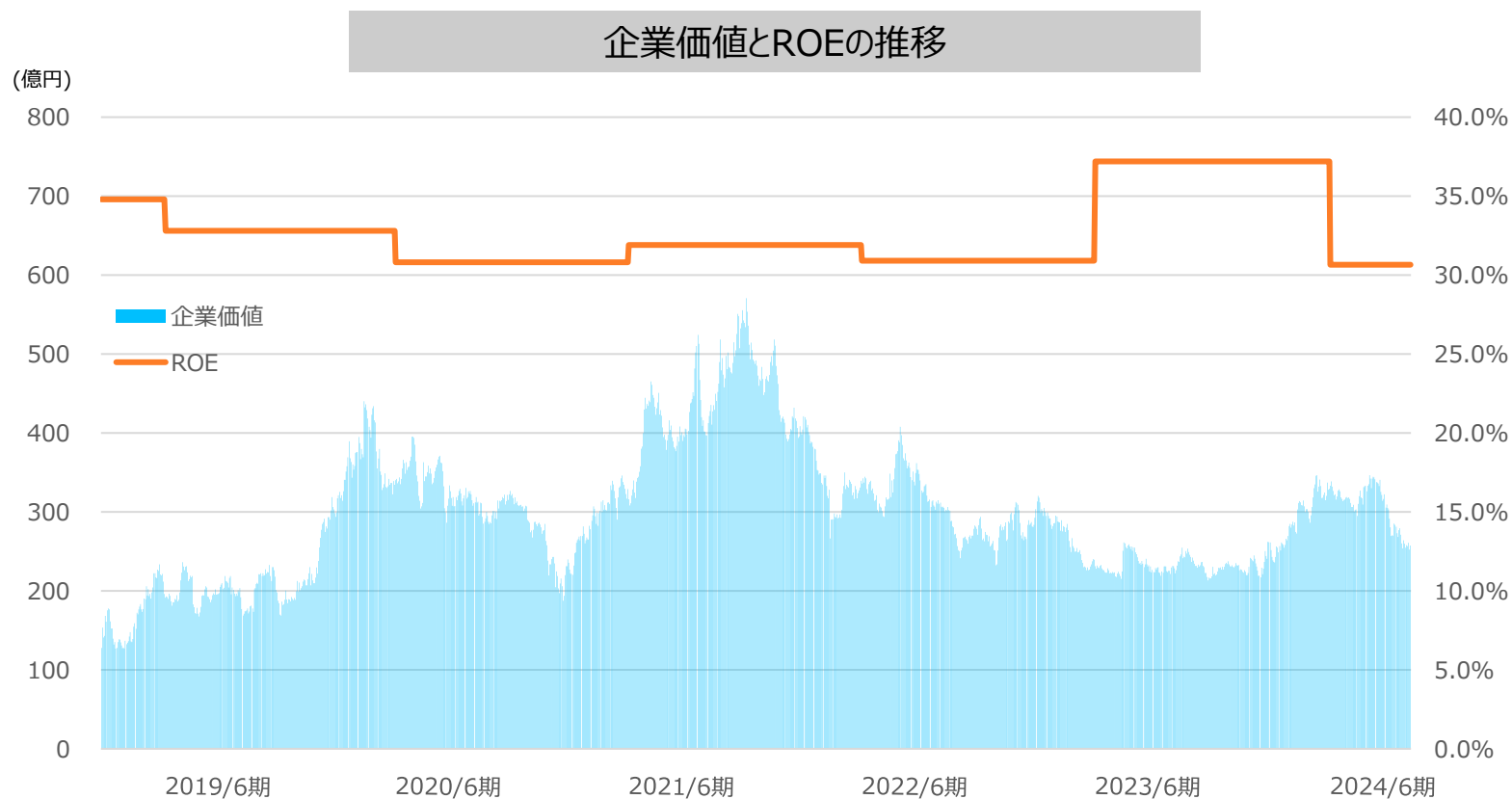
- 経常利益を四半期別に見ると、2022/6期より季節要因によるボラティリティは徐々に低下し、期を追って業績が改善する傾向が顕著に。ストック収益の積上げが「稼ぐ力」を着実に底上げ
- 2024/6期も、四半期で大きな変動は見込まず。ただし、賃貸住宅市場の繁忙期に相当する3Qから年度末の4Qにかけては収益が高めに計上される傾向は残ると予想

四半期別経常利益の推移イメージ

(億円)



- ROEは30%超の非常に高い水準を継続も、企業価値は過去最高値からはおよそ半減した状態
- 財務レバレッジの拡大や資本市場からの評価引上げを通じ、企業価値の増大を目指す



注) 企業価値 = 時価総額 + 有利子負債 - 現預金と定義



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

トピックス

- 1 ホームユース： エスリード社と業務提携**
- 2 ホームユース： 人気設備ランキング「インターネット無料」第1位**
- 3 ホームユース： 常口アトム「JOG Free Wi-Fi」のOEM提供開始**
- 4 ビジネスユース： DUALホールディングスと業務提携**
- 5 ビジネスユース： 盛岡競馬場のWi-Fi構築事例**
- 6 ビジネスユース： ATWS2023のWi-Fi協賛**

分譲マンション大手デベロッパー・エスリード株式会社と業務提携



今後のマンション開発



Wi-Fiシステム



FGスマートコール

業務提携内容

- ① 新築マンションのネットワーク構築
- ② IoTソリューションを活用したマンション開発

提携の目的

エスリード社のマンション開発にファイバーゲート保有するWi-Fi構築をはじめ
 その他通信商材「FGスマートコール（顔認証付きインターホン）」を組み合わせ、
更なるマンションの付加価値向上を目指す

全国賃貸住宅新聞

人気設備ランキング

「この設備があれば周辺相場より家賃が高くても入居が決まる」（付加価値編）



1位 「インターネット無料」

（単身者向け、ファミリー向けともに1位）

- ✓ 単身者向けでは9年連続の1位
- ✓ ファミリー向けでも8年連続
- ✓ インターネットインフラは人気設備として定着

当社ホームユース事業のビジネスモデルは依然として十分機能可能なことを確認

引用：全国賃貸住宅新聞 10月16日号
 ネット無料、首位独走【入居者に人気の設備ランキング2023 付加価値編】 <https://www.zenchin.com/news/content-1257.php>

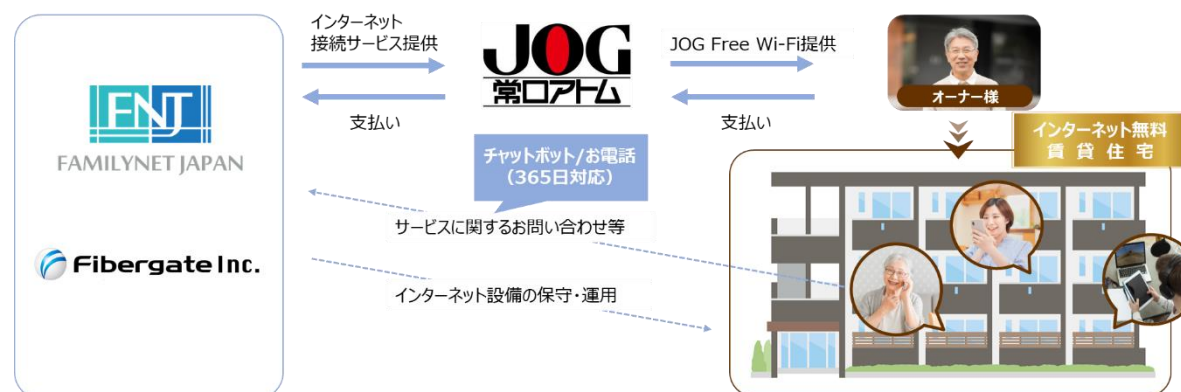
株式会社ファミリーネット・ジャパンと共同で、株式会社常口アトムの全戸一括インターネットサービス「JOG Free Wi-Fi」のOEM提供を開始



■ 目的

今回のサービス提供を通じて、入居者様の住満足向上、物件オーナーの賃貸経営安定化に貢献。

■ 提供イメージ



〔株式会社常口アトム〕

設立：1992年2月

代表者：代表取締役社長 清河 智英

所在地：北海道札幌市中央区北2条西3丁目1番地12 敷島ビル3F

事業内容：アパート、マンション、戸建等居住物件の賃貸借仲介業務及び、共同住宅の企画等。管理戸数は直近5.6万戸

〔株式会社ファミリーネット・ジャパン〕

設立：2000年10月

代表者：代表取締役 浜西 豊

所在地：東京都港区愛宕二丁目5番1号愛宕グリーンヒルズMORIタワー29階

事業内容：集合住宅向けインターネット接続サービス、エネルギーの売買、エネルギーモニタリング及びエネルギー情報活用サービス等

EV充電インフラ事業を展開する株式会社DUALホールディングスと業務提携 パートナー提携を通して販路拡大を目指す



業務提携内容

- ✓ 双方の事業領域における協力を通じた新たなサービス価値の創出
- ✓ 当社のビジネスユース事業の顧客をターゲットとして促進

提携の目的

- ✓ インフラを通じて顧客の課題解決に取り組む企業としての事業シナジー創出
- ✓ 相互の顧客紹介を通じた両社の事業発展の加速

<EV充電コンシェルジュ>

お客様の抱える課題をコンシェルジュ目線でヒアリングし、20社以上の充電器メーカーから選定された充電器の提案、設置工事、国や自治体への補助金申請の事務サポートまでをワンストップで提供

地方競馬場で日本一の広さを誇る「盛岡競馬場」へWi-Fi Nex[®]の提供開始



導入経緯

ダートグレード競争実施時に携帯電話の電波の輻輳等が影響し、来場者の通信環境が芳しくない状況が発生

導入ポイント

- ✓ トラフィックの負荷を分散させるネットワーク設計を実施
- ✓ ユーザー認証プロセスによるネットワーク犯罪の抑止
- ✓ イメージキャラクター「ハヤテ君」を用いたオリジナル認証画面

▶ **フリーWi-Fiを構築して分散させ、輻輳緩和を期待**

▶ **約20台のアクセスポイントで競馬場スタンド内をカバー**

【施設概要】

- ・名称：盛岡競馬場
- ・住所：岩手県盛岡市新庄字上八木田10
- ・敷地面積：128ha

「ATWS2023」Wi-Fi構築協賛で北海道のアドベンチャーツーリズムに貢献

2023年9月11日～14日に開催された
アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（ATWS2023）
Wi-Fi環境構築のパートナー企業として協賛

構築概要

オープニングセレモニー（レセプション）会場である大倉山ジャンプ競技場と
本大会の会場である札幌コンベンションセンター内のWi-Fi環境構築

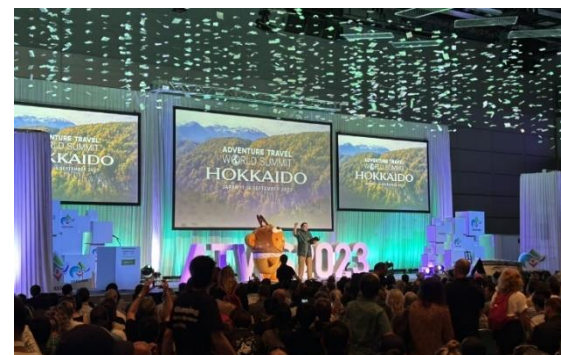
設計ポイント

各国から来場される参加者が期間中、各会場でスムーズなWi-Fi
接続を可能とするため、来場者用フリーWi-Fiと講演者専用のネッ
トワークを区別して構築

<ATWS2023概要>

ATTAが主催する世界最大のアドベンチャートラベルイベント。
世界中の約60カ国から旅行会社やメディア、ツアーオペレーター、アウトドアメー
カー、政府観光局、観光協会、DMOなど約800人の関係者が参加し、期間中
にATツアー体験や講演会、セミナー、商談会等が行われる。

2023年のATWSの開催地は、北海道。





Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート

Appendix



**通信機器の開発・製造から電気通信サービスまで、
一貫して手がける（通信系キャリア以外の）
独立系Wi-Fiソリューション企業***

***独立系公衆無線LAN 事業者**

公衆無線LAN(Wi-Fi)アクセスサービス分野で、総務省（総合通信基盤局事業政策課）管轄業者かつ提供区域が全国の業者は、現在15社で、当社は大手キャリアと肩を並べる存在

通信事業：Wi-Fi通信システム



Wi-Fi, Anywhere



Fibergate Inc.

株式会社ファイバーゲート



不動産事業：
Wi-Fi、IoT、再エネ装備のマン
ション開発とそのシリーズ化

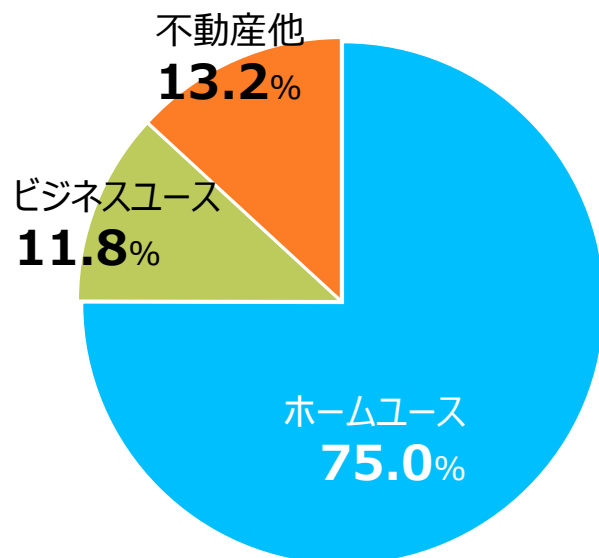


再生可能エネルギー事業：
自家発電自家消費型システム

- 2つの通信関連事業と不動産事業の計3事業を展開。主力はレジデンスWi-Fiで、直近期の売上構成は76.6%
- 高採算の「顧客PB化支援」（当社は黒子として貢献）に注力

売上構成内訳

2023/6期実績



<主力の通信事業>

ホーム ユース事業



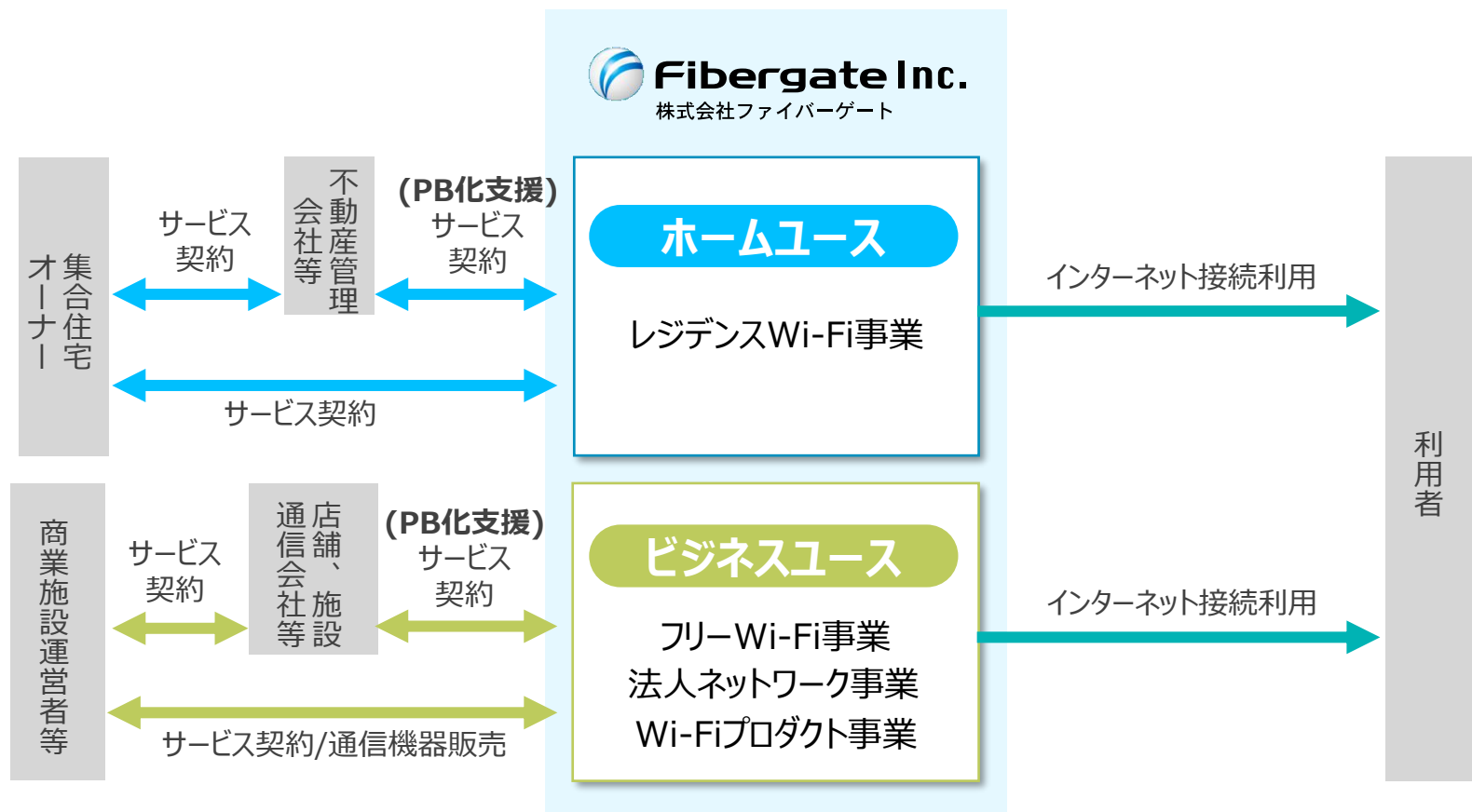
- ・マンション・アパート向け全戸一括インターネット接続サービスの提供
- ・顧客は集合住宅オーナー



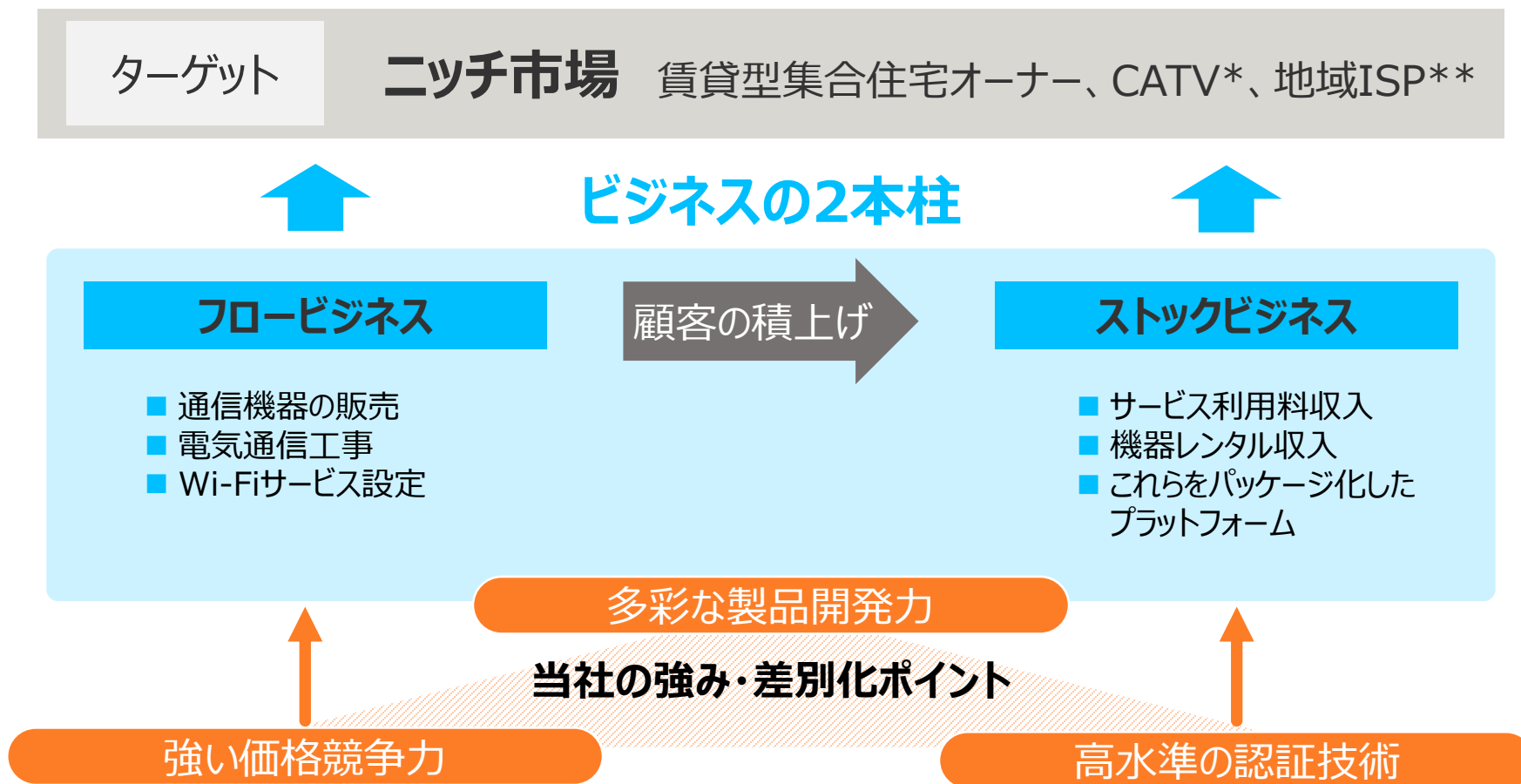
ビジネス ユース事業

- ・フリーWi-Fi事業(観光地、商業施設向け)
- ・法人ネットワーク事業
(インターネットプロバイダサービスなど)
- ・Wi-Fiプロダクト事業
(通信機器の製造販売)
- ・顧客は観光自治体、商業施設などのロケーションオーナー

- 金銭報酬はサービス契約先より受領。インターネット接続利用者の金銭負担はなし
- 「顧客のPB化支援」が主力



- ニッチ市場に向けて、フローとストックの2本柱を用意
- 当社の差別化ポイントは、「製品開発力」、「価格競争力」、「認証技術」の3点



*CATV : Cable Television。光ケーブルなどを用いてテレビ放送やインターネット接続、電話などのサービスを提供する企業

**ISP : Internet Service Provider。インターネット接続の電気通信役務を提供する電気通信事業者

“すべての施設にWi-Fiを”

Alternative Career構想実現へ、端末領域を強化拡充

Forward to “Alternative Carrier”

～全ての通信のゲートウェイを目指して～



衛星通信



4G/LTE/5G



既に布石
構築済



WiFi

中期注力領域



年	内容
2000	➤ 国内、国際電話サービスの加入取次を目的に仙台市若林区に会社設立
2003	➤ 札幌市中央区に本社移転 ➤ 複数拠点企業のネットワーク構築、Webでのブロードバンド回線販売を主業とする
2004	➤ レジデンスWi-Fi事業を開始
2005	➤ Wi-Fiによるブロードバンド化サービスを開始
2006	➤ PB化支援による集合住宅向けインターネット無料サービスを開始
2009	➤ フリーWi-Fiサービス事業を開始
2013	➤ コンピュータウェアの企画開発及びインターネット回線取次を担当する子会社NOISを設立
2014	➤ 当社開発通信機器の販売事業（Wi-Fiプロダクト事業）を開始 ➤ PB化支援による店舗・商業施設向けWi-Fiサービスを開始
2015	➤ 電気通信工事事業認可（北海道知事許可）を取得 ➤ 台湾に100%子会社・飛博網通技股份有限公司を設立 ➤ 電気通信事業法に基づく電気通信事業の登録免許を取得
2018	➤ 東京証券取引所マザーズ市場に上場 ➤ 株式分割（1株→2株）実施
2019	➤ 東京証券取引所第一部に上場市場変更 ➤ 札幌証券取引所に上場 ➤ 株式分割（1株→2株）実施
2020	➤ プロダクト開発子会社FG-Lab設立
2021	➤ 不動産関連事業を行う子会社FGスマートアセットを設立 ➤ 再生可能エネルギー事業を行う子会社オフグリッドラボを設立
2022	➤ 不動産売買・保有を行うTMアセットの株式を取得

決算年月		2018/6期	2019/6期	2020/6期	2021/6期	2022/6期	2023/6期
売上高	(百万円)	3,977	5,446	7,424	8,491	10,624	12,795
経常利益	(百万円)	510	886	1,215	1,543	1,604	2,290
当期純利益	(百万円)	312	550	722	1,019	1,073	1,482
資本金	(百万円)	401	426	479	488	494	494
発行済株式総数	(千株)	4,761	9,807	20	20,487	20,591	20,591
純資産額	(百万円)	1,380	1,981	2,710	3,677	3,279	4,758
総資産額	(百万円)	4,364	5,311	6,984	9,397	13,087	12,764
1株当たり純資産額	(円)	144.92	202.06	133.52	180.40	160.74	230.12
1株当たり当期純利益金額	(円)	81.62	57.60	36.19	50.11	52.60	72.70
自己資本比率	(%)	31.62	37.30	38.80	39.13	25.06	36.80
自己資本利益率	(%)	34.82	32.77	30.81	31.92	30.86	37.19
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	808	1,345	1,732	1,710	2,295	4,296
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲1,328	▲1,389	▲2,071	▲2,256	▲2,626	▲2,189
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	868	▲15	699	1,326	436	▲2,027
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	1,118	1,058	1,415	2,196	2,303	2,382
従業員数	(人)	141	159	180	221	231	232

Wi-Fi, Anywhere 「すべての施設にWi-Fiを」 ～Alternative Carrierの実現に向けて～

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画本部 IR担当
0120-772-322
fgir@fibergate.co.jp